

第 36 回 木津川上流河川環境研究会 議事概要（案）

【開催概要】

開催日時： 令和 3 年 3 月 16 日(火曜日) 10:00～12:15

開催場所： 会場：メルパルク京都 4 階 研修室 3、4

WEB と併用で実施

【出席者】

委員： 会場 4 名（角座長、海老瀬委員、堀委員、松井委員）

WEB 3 名（藤村委員、平山委員、森委員）

事務局： 会場 木津川上流河川事務所 3 名（小寺所長、大西副所長、長坂調査課長）

WEB 木津川上流河川事務所 4 名（大岩工務課長、森本管理課長、中辻流域調整係長、大橋係員）

オブザーバー： 会場 水資源機構木津川ダム総合管理所 1 名（松本調整課長）

WEB 水資源機構関西・吉野川支社淀川本部 3 名（岩本施設管理課長、津久井事業課長、本田主査）

水資源機構川上ダム建設所 1 名（松浦環境課長）

水資源機構木津川ダム総合管理所 2 名（國枝所長、西津主査）

紀伊山地砂防事務所 1 名（山田調査課長）

【議事次第】

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

(1) 木津川上流河川環境研究会について

- ・前回 第 35 回研究会および各ワーキングでの指摘対応の確認

(2) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

- ・今年度の工事実施状況等

(3) 堰・魚道 連続性再生検討について

- ・縦断連続性再生検討：今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案
- ・横断連続性再生検討：今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案

(4) 河道内樹林管理検討について

- ・今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案

(5) 水量・水質検討について

- ・これまでの検討成果と今後のワーキングの進め方

(6) 土砂管理検討について

- ・木津川上流における土砂管理に関する取組みについて
- ・水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組みについて

4. 閉会

【配付資料】

- ◆議事次第 / 席次表 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ◆資料 1 : 第 35 回木津川上流河川環境研究会等 指摘対応
- ◆資料 2 : 河川工事実施に係る環境保全に関する検討資料
- ◆資料 2 参考資料 : 参考資料
- ◆資料 3-1 : 木津川上流 縦断連続性再生検討資料
- ◆資料 3-2 : 上野遊水地 横断連続性再生検討資料
- ◆資料 4 : 河道内樹林管理検討資料
- ◆資料 4 参考資料 : 参考資料
- ◆資料 5 : 水量・水質に関するこれまでの検討成果と今後のワーキングについて
- ◆資料 5 参考資料 : 参考資料
- ◆資料 6-1 : 木津川上流における土砂管理に関する取組みについて
- ◆資料 6-2 : 水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組みについて

【審議内容】

(1) 木津川上流河川環境研究会について

事務局より、前回 第 35 回研究会および各ワーキングでの指摘対応について説明を行った。
(質問や意見なし)

(2) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

事務局より、今年度の工事実施状況等について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・単年度に行われる河道掘削等の事業と引堤のような長期にわたり行われる事業については、区別して考える必要がある。これまでは単年度の事業における配慮事項が中心になっていたが、今後、引堤により河道が広がることを踏まえ、環境の視点でどのようにデザインしていくかが中心的なテーマであるため、本研究会で議論できるとよい。〈角座長〉
- ・今年度の工事期間中に大規模な出水はあったか。〈海老瀬委員〉
⇒今年度については、大規模な出水はなかった。〈事務局〉
- ・平水位から 30 cm の高さの範囲を非改変箇所としているが、この数値はどのように設定しているのか。また、非改変箇所が出水等で変化していくのは想定内か。〈藤村委員〉
⇒30 cm の範囲は、現地の状況を踏まえ、目安として設定している。また、水際が攪乱を受け変化していくのは想定内である。現地では出水等に伴い、より自然な状態となり良好な湿地環境が創出されている。〈事務局〉
- ・ドローンを用いたグリーンレーザー測量は、今後、総合土砂管理の検討を進めるにあたって有効であるため、活用できるとよい。〈藤村委員〉
- ・岩倉地区周辺には重要種が多く確認されているため、工事にあたっては十分に配慮していく必要がある。〈藤村委員〉
- ・現地をみながら意見交換できる場も設定してほしい。〈角座長〉

(3) 堰・魚道 連続性再生検討について

1) 縦断連続性再生検討：今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案

事務局より、縦断連続性再生検討に関する本年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・魚道への通水期間の延長については、次回の水利権更新時に協議が必要となる。それまでに、環境面からの必要な時期や流量について整理し、協議に向けて準備を進めておくことが重要である。〈角座長〉
- ・連続性の改善に伴いコクチバスが拡散していくことも懸念されるため、今後検討を進めていくことが必要である。〈森委員〉
- ・漁協に対してもコクチバスが環境に与える影響を理解してもらえるように、根拠をもった資料を用い説明する場を設ける等により啓発していく必要がある。〈森委員〉
- ・外来魚は人為的に拡散されることも多いため、ダム湖の釣り人の状況も整理しておくとうい。〈森委員〉

2) 横断連続性再生検討：今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案

事務局より、横断連続性再生検討に関する本年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・水田魚道の設置に関して、遊水地内の農家や周辺の住民も含め、理解を得ていくためには、水田の環境面の価値と、それを向上させるための水田魚道の必要性を整理する必要がある。また、取り組みにより遊水地の価値が向上することについて、地域の人が実感できることが重要である。流域治水を進めるためにも、このような実績を積んでいく必要がある。〈角座長〉
⇒豊岡の「コウノトリ米」のように、環境面のメリットを PR していくことを含め考えていきたい。〈事務局〉
- ・小田川魚道の維持管理について、将来的に地元住民により行われるようになることが理想的である。〈松井委員〉
- ・なぜ、魚道が必要なのかという地元の理解も必要となってくる。〈角座長〉

(4) 河道内樹林管理検討について

事務局より、今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・タケチップマルチングや天地返しも試行しているが、今後のモニタリングによりメカニズムも含め検討していけるとよい。また、既存事例をもとに、現地で試行しながら、より有効な手法について検討を進めていけるとよい。施工方法を工夫することにより、効率化も図れる可能性もある。〈藤村委員〉
- ・長期的にみて必要な伐採量と確保できるコストを見据え、最適な伐採手法やバイオマス発電等への有効利用を踏まえ、おおまかなストーリーを構築した上で、課題となるポイントを明確にし、検討を進めていくとよい。〈角座長〉
- ・土砂供給と洪水当力により河床や植生を管理していくことは重要な視点である。総合土砂管理

は、植生管理を含め、幅広い事象に結びついていることを意識しておくことが重要である。〈角座長〉

(5) 水量・水質検討について

事務局より、これまでの検討成果と今後のワーキングの進め方について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・SSについては、川の本質的なものか、工事等による一時的なものか、現象を見極めることが必要である。〈角座長〉
- ・布目川から比較的濃度の高いSSが流下しているため、わかる範囲で原因を調べて欲しい。〈海老瀬委員〉
- ・室生ダムと布目ダムで近年クロロフィルaとT-Pが上昇しているため、注視しておく必要がある。〈海老瀬委員〉
- ・伊賀市の浄化施設は、古く十分な効果を発揮できていないものが多く、施設の改良等を行うことが必要である。自治体との意見交換の際には、委員からこのような意見があったことを伝えて欲しい〈海老瀬委員〉
- ・意見交換の時は河川管理者ではなく、第三者的な委員からの意見として伝えていくことも重要である。〈角座長〉

(6) 土砂管理検討について

1) 木津川上流における土砂管理に関する取り組みについて

事務局より、木津川上流における土砂管理に関する取り組みについて説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・木津川における土砂管理の検討の枠組み・連携は、淀川水系総合土砂管理検討委員会経由のみでなく、木津川土砂環境検討会、木津川上流ダム群土砂管理懇談会との連携や情報共有を図り、検討を進めていくことが重要である。〈角座長〉

2) 水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取り組みについて

水資源機構より、水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取り組みについて説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・木津川漁業協同組合と土砂供給の重要性について議論を進め、その結果についても共有して欲しい。〈角座長〉

(7) その他

事務局より、次年度の河川環境環境研究会等の開催予定、淀川水系河川整備計画の変更について説明を行った。

以 上